東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2009年7月24日

エネルギー資源の倹約と浪費

親愛なるムスリムの皆様。世界にあるものは全て人間の為に創造されたもので、人間への奉仕を行うべき存在とされています。私たちが人間として行なうべきことは、許された手段を用いて働き、現世における必要性を満たすことです。この必要性を満たす際には、節度を持って振舞うべきということに疑念の余地はないでしょう。節度なく行なわれる消費はみな、浪費となります。浪費は私たちの教えにおいて禁じられているものです。実際アッラーは識別章第 67 節において、アッラーの誠実なしもべについて「また（財貨を）使う際に浪費しない者、また吝嗇でもなく、よくその中間を保つ者。」と定義され、浪費を行なうこと、吝嗇であることを禁じておられます。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。飲み食いや衣装などにおいて必要もない消費を行なうことが浪費であるように、私たちの生活に必要不可欠なエネルギー源を考えもなしに消費してしまうことは浪費です。私たちの文化や信仰には、「川のほとりで礼拝前の清浄を行なう時でさえ、水を浪費してはいけない」というハディースのメッセージが根底に存在しています。それに反する行いは、浪費してはいけないという教えの見解に従わないものとなるのです。

現代社会では、贅沢、見せ掛け、浪費は際限のない状態に達してしまっています。捨てられるパン、廃棄される食べ物は何百万人もの飢えた人々に十分なほどの量であるとされます。助けを必要としている人を援助する代わりに、浪費することを選択するのはムスリムに適した振る舞いではありません。信者は、自分の振る舞いが後に尋問にかけられることを認識しつつ生きます。アッラーが禁じられた全てのことから遠ざかるべく努めるのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。贅沢や見せ掛けの為に行なわれる消費は、社会の崩壊や後退の主要な要因の一つです。私たちの教えイスラームは、恵みが浪費されてはいけないという点について次のように警告しています。「アーダムの子孫よ、何処のマスジドでも清潔な衣服を体につけなさい。そして食べたり飲んだりしなさい。だが度を越してはならない。本当にかれは浪費する者を御好みにならない」（高壁章第 31 節）

崇高なる神が私たちに与えてくださった恵みを、私たちは最良の形で生かさなければなりません。ただこの恵みが、私たちへの信託として与えられたものであることも忘れてはいけません。責任感を持ち浪費や吝嗇から遠ざかった生涯を送らなければならないのです。今日のフトバを、ある聖ハディースによって締めくくります。「うぬぼれることなく、また浪費することなく飲み食いし、衣装を整えなさい。そしてサダカを払いなさい。」